

令和４年度　長野県長野高等学校　全日制　学校評価(中間評価)実施内容

重点 目標	評価項目	評 価 の 観 点	実施内容
深い学びを 目指した授 業の改善と 充実	深い学び の実現	①生徒の学ぶ意欲とともに、思考力・判断力・表現力、主体性をもって多様な人々と協働的に学ぶ態度等を育む「深い学び」を目指した授業が実践されている。	HR教室及び特別教室に電子黒板を設置し、実物投影機やタブレットとも組み合わせて多様な形態で授業を行っている。教員がICT活用に積極的に取り組む雰囲気の中で、オンライン授業など新しい授業方法を各担当で研究・実施している。 『学習の手引き』(シラバス)を各学年毎に作成し、年間計画を立てて授業を行っている。9月には生徒による授業評価アンケートを実施し、その結果を各授業担当者に還元し、授業改善に役立てている。
		②保護者に授業を公開するとともに、本校職員の間でも授業を互見し、授業改善に役立てている。	公開授業を5/21に本校保護者対象で実施し、223名の参加があった。また、中学生体験入学を7/31に実施し、787名(中学生531名、保護者・中学校教員計256名)の参加があった。10/12に第2回公開授業を予定している。コロナ禍にあるが、感染対策を講じながら、オンライン配信等できる限り多くの方に公開できるよう務めた。公開授業、体験授業ともに、参加者からは概ね好評であった。
		③各種試験の位置付けを踏まえ、その結果を教科内で分析・共有するとともに生徒へ還元し、学力に応じた指導に生かしている。	整理考査・定期考査・一斉考査を1年7回、2年8回、3年4回実施し、さらに3年は校内模擬試験を年2回実施している。全員対象の校外模試は、1年5回、2年6回、3年9回実施または予定(この他に希望者対象のハイレベル、個別大学の校外模試を実施)しており、いずれも、データを生徒に返却するとともに、学年・教科担当で分析・共有している。
	進路を拓 く学びの 実現	④新学習指導要領への移行や大学入学者選抜改革に対応した学びの充実と指導体制の構築に向けて、本校の課題に取り組んでいる。	各種研究会や大学主催の説明会などに係職員や学級担任が対面・WEBを利用して出席し、大学入学者選抜改革についての内容を学年通信や学年集会などを通して生徒に伝えている。保護者対象の進路講演会を学年PTAの際に実施している(3年:8月20日、2年:10月1日(予定)、1年:10月8日(予定))。また、本校生徒を対象として、7月11日に信大医学部医学科説明会、7月8日には医学科のための奨学金の選び方講座を実施した。さらに、7月15日に信大工学部・教育学部説明会を実施した。卒業生による合格体験記『後輩へのアドバイス』を刊行し、全校生徒に配布した。 卒業生の進路研究会を4月に実施し、在校生の進路検討会を3年生について3回(7月、12月、1月)、2年生について1回(12月)、1年生について1回(12月)実施(予定)し、生徒の様子を職員間で確認・共有し、助言や学習指導に生かしている。また考査ごと、生徒個々の学習状況の把握に努めている。
		⑤「大学の先にある社会」を意識しながら文理選択や学部学科選択を行うキャリア教育・進路指導が実践できている。	1年生は5月のLHRで学部学科研究会(教育実習生による大学生活の報告・懇談)を実施した。2年生は10月の土曜セミナーで学部学科研究会(講師は大学教官等)を実施する。1年生希望者が8月に長野地方検察庁の職場体験、2年生希望者が5月と8月に看護師体験に参加した。さらに、高校生模擬裁判に2年生6名が参加し、全国大会に出場した。また、2年生は自分の希望する大学のオープンキャンパスに訪問、またはオンラインで参加し、オープンキャンパス報告会で発表した。 8月4日・5日には本校主催による「東大セミナー」(1年11名、2年24名参加)、8月2日・3日「東北大セミナー」(1年7名、2年52名参加)を実施した。また、NGP課題研究のフィールドワークで社会の第一線の職場を訪問し、インタビューによってそこで活躍する大人の生き方にふれる機会を持っている。
基本的生 活習慣・主 体的活動	主体的活 動の充実	⑥生徒会や班活動等の教育活動の充実・活性化に努め、主体的・自立的な生徒の育成を図っている。	今年度も様々な制約があったが、工夫して生徒会活動を行ってきた。例年は体育館で3日間行う1年生の応援練習は、振りだけの練習を1日、声を出しての練習は1学年を二つに分けて中庭で1日ずつ行った。生徒大会・壮行会はリモートや放送というかたちで行った。金鷄祭は関係者公開とし、各企画も安全・衛生に注意を払って行い、無事終了した。クラブ活動では、弓道班が全国総体に、囲碁将棋班・かるた班・文芸班・管弦楽班・新聞部が全国総文祭に出場した。また、ラグビー班・剣道班・卓球班・バドミントン班・ソフトテニス班・水泳班が北信越大会に出場した。1年生のクラブ加入率は7月末現在約85%である。
	基本的生 活習慣の 確立	⑦生徒会・班活動と家庭学習時間のバランスを図り、学習習慣の確立と学力の定着に努めている。	全学年とも前期に2回(4月・6月)の個人面談、1回の保護者懇談(7月・8月)を実施した。後期も同様に、随時面談等を行い、生徒の生活状況、学習状況の把握に努めていく。また、年2回、生活実態調査を行い、生徒の生活状況を把握するとともに、面談などを通して自らの学習についての「振り返り」と学習習慣確立のためのアドバイスの資料としている。特別な場合を除き完全下校は19時とし、またテスト前の班活動は行わないことを全職員で申し合わせている。 また、土曜セミナーは8月までに3回行い、年に10回程度実施する予定である。放課後の教室での自習については、職員当番制で19時まで保障している。1年生は入学当初に3日間学校でのオリエンテーションを、3年生は8月に5日間の学習合宿(約130名参加)と学校学習(約60名参加)を実施した。3月に、1・2年生は4日間の学校学習を予定している。
地域との協 働による高 等学校教 育改革推 進事業の 推進	グローカ ル人材の 育成	⑧SGHから続く8年間の学びを継承しつつ、「国際交流」と「課題研究」を柱とする新たな探究学習のカリキュラムの開発に努めている。	「国際交流」については対面での交流が難しい情勢の中で、オンラインを活用した事業を継続しつつ交流プログラムの充実に努めている。「課題研究」については文部科学省の指定事業にとらわれない自由な課題設定とすることで、生徒の研究意欲を高め、研究の質の向上を目指している。 3年選択生31名は、「課題研究」、「高校生会議」、「English Essay」の3つから1つを選び取り組んだ。5/21(土)は「高校生会議」を開催し、1、2年生も参加を呼びかけ、教育問題について議論した。7月25日(月)～27日(水)は「グローバルアカデミアweek」として、3年生の課題研究発表会を開催した。現在、研究成果をポスターや英語論文にまとめている。 2年生は、「総合的な探究の時間」に、課題発見・解決を目指す学習を進めている。進路希望に関連した研究が増え、実験を伴う理系的な研究を行う生徒も見られる。7月19日には、フィールドワークを行い、対話的な学びを行った。また、英語キャリアプロジェクトⅡでは台湾高雄市の高校生との交流に向け、「プロモートツアリズム」をテーマとしたビデオの制作に取り組んでいる。校内外で連携して、主体性・協働性・コミュニケーション力等を育てるしかけづくりに努めている。 1年生は、4月から7月にかけて「オリエンテーション」「プレストワークショップ」「ディスカッション講座」を実施して探究活動の基礎を学んだ。課題研究班のグループが決まり、11月のFW(フィールドワーク)に向けて準備を進めている。また英語キャリアプロジェクトⅠでは、10/1(土)の「英語プロジェクト発表会」に向け、英語力や表現力の養成に資する発表方法の学習を進めている。
		⑨外部の諸機関や多様な人々と連携しながら、探究学習の充実を図る取り組みを実践している。	SGHの時代からの8年間で開発したカリキュラムについては、これまで蓄積した課題研究のスキル・ノウハウに磨きをかけ、より深い探究的な学びを実現できるものとなるよう検討を進める。折しも到来したコロナ禍にあって地域に目を向けることが一層求められる中、外部機関との課題解決に向けた提言を発信する力を育成していく。
安全・安心 な学校づく り	自他を大 切にする 姿勢の育 成	⑩豊かなコミュニケーションを通じて互いを尊重し、支え合う生徒集団の形成に努めるとともに、生徒の安全管理意識を高める指導を実践している。	学年別では、1年生に重点を置き、「情報モラルと情報発信に潜む危険性」(8月動画)について学び、また、1年生に高校生の心の健康についての講話(6月)をおこなって、理解を深めた。(4月実施予定の「心身の健康と学習」は学級閉鎖により未実施)今後、性教育講話(10月)を実施する予定。2・3年生については、教科学習やHR活動の中で人権問題を扱い、人権意識の高揚を図っている。学校全体としては、9月上旬に「人権教育週間」を設け、資料に基づいた人権学習を行っている(本年度は、「人権に関する知的理解とLGBTQ」)。 昨年度自転車事故が多発したため、今年度の新入生から自転車通学の際にはヘルメット着用を義務づけ、2・3年生には着用を推奨した。春と秋の交通安全週間に加え、5月に警察や地域の方々と生徒、職員が街頭指導を、また、一年生を対象にスタントマンによる交通安全教室を実施した。長野中央署から、自転車完全利用モデル校の指定も受けており、安全な登下校について、注意を呼びかけていきたい。8月末時点で自転車事故6件(昨年度14件)、不審者被害3件。あわせて、情報機器などの適切な使用についても注意を喚起している。
	安全・安 心な学校 づくり	⑪清潔・衛生的で誰もが過ごしやすい学習環境をつくるとともに、心や身体に悩みを抱える生徒に温かな支援ができています。	日常清掃の際に、生徒会・職員がゴミ集積所に立ち、ゴミの分別を確認している。また分別をより細分化し、資源物を買取ってもらい生徒会の収入としている。この他、月1回程度の大掃除、年2回(7月・12月)のワックスがけを実施している。職員にも分担を割り振り、清掃がきちんと行われるよう日常的に指導している。また、トイレの改修を進めている。トイレの一部を自動洗浄のものに改修した。 倉石医師による「心の健康相談」、SCによる相談を中心に据えた相談体制をくみ、対象生徒について担任と校長・教頭・関係職員が情報を共有し、支援の方策を考えている。4月定期健康診断は感染症対策等について学校医、職員等のご指導ご理解の下、各学年一斉実施。早期に学習体制を整える一助とした。学校保健委員会を行い学校医より生徒の健康に関する助言をいただいた。7月夏季健康診断、9月秋季健康診断を実施。10月研修旅行前健康診断、11月冬季健康相談を実施予定。
		⑫保護者や地域の方々の意見に対して迅速に対応するとともに、学校の情報を積極的に公開・発信している。	保護者や地域の方々からの意見・要望等については、教頭が中心になり、教務室・保健室・学年会・生徒指導係など関係部署と密接に連携をとり、的確に対応するように努めている。 コロナ禍で地域の様々な行事が開催規模を縮小するなどして、生徒が地域に出る機会も減少してはいるが、昨年度に引き続き、地域の秋祭の行灯飾りの制作を書道班・美術班が担うなど、地域貢献にもつとめている。 各学年で学年通信を毎月1～2回、発行している。学校ホームページ(http://www.nagano-c.ed.jp/naganohs/)における情報の更新も随時行っている。「長高生の日常」や「NGPブログ」は新しい情報を掲載するよう努めている。 必要が生じた時は、本年度途中から導入したオクレンジャーを利用し、一斉メールによって必要な情報を必要な学年やクラス等に速やかに伝えている。他に、「図書館報」・「保健だより」なども随時発行している。